

Catch the WAVE

卒業生の活躍の様子からさぐる未来

2019.2~2019.6 EXHIBITION

第42回 西部染織作家展
 ▷福岡三越・岩田屋三越美術画廊
 2月6日(水)~11日(月)
 盛かおる(4期)、大淵和憲(8期)
 岡部由紀子(2期)

**博多織ており作家展
 ~手からてへ~**
 ▷アクロス福岡匠ギャラリー
 2月18日(月)~24日(日)
 新海佳織(4期)、近藤啓子(6期)
 岡部由紀子(2期)

絲衣司 紫の会
 ▷はかた伝統工芸館
 3月7日(木)~10日(日)
 岡部由紀子(2期)

**博多の粋~
 博多水引と博多織の
 新しい世界**
 ▷名古屋三越栄店
 4月10日(水)~16日(火)
 宮嶋美紀(5期)、深堀由美子(9期)



**まゆ姫の夢
 「イトから始まる物語展」**
 ▷新天町村岡屋ギャラリー
 5月28日(火)~6月2日(日)
 大内田明子(3期)、荒木希代(3期)
 深堀由美子(9期)

**第23回 女性伝統工芸士展
 ~作家とともに~**
 ▷アクロス福岡交流ギャラリー
 ・匠ギャラリー・メッセージホワイエ
 6月12日(水)~17日(月)
 古賀陽子(2期)、相澤久美子(5期)

板東玉三郎 下関特別公演
 ▷下関市民会館
 6月28日(金)
 新海佳織(4期)、盛かおる(4期)
 相澤久美子(5期)、森本美生(5期)
 古賀陽子(2期)、近藤啓子(6期)
 岡部由紀子(2期)

**棚機祭~松浦長治&
 博多織DCデベロップメント
 カレッジ卒業生作品紹介~**
 ▷OKANO 博多パレイン店
 7月5日(金)~8日(月)
 近藤啓子(6期)、秋澤ゆずか(9期)

**小川規三郎が伝える
 「献上博多織」展**
 ▷福岡三越 催物会場
 7月10日(水)~15日(月)
 岡部由紀子(2期)、古賀陽子(2期)
 田代和子(2期)、荒木希代(3期)
 新海佳織(4期)、盛かおる(4期)

近藤啓子(6期)、養田晶(7期)
 大淵和憲(8期)、片木奈津子(8期)
 広渡千春(9期)

若手匠衆~夏~
 ▷伝統工芸 青山スクエア
 7月12日(金)~18日(木)
 岡部由紀子(2期)、近藤啓子(6期)
 古賀陽子(2期)、新海佳織(4期)
 7月19日(金)~25日(木)
 田代和子(2期)、相澤久美子(5期)

Next EXHIBITION
**第12回
 博多織・伊万里焼交流展**
 ▷アクロス福岡 匠ギャラリー
 9月9日(月)~15日(日)
 橋口恵美(10期)、大淵和憲(8期)

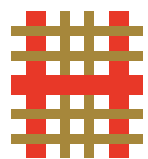
そめもよう×織り色 展示会
 ▷松楠居
 11月15日(金)~17日(日)
 近藤啓子(6期)、新海佳織(4期)
 盛かおる(4期)、岡部由紀子(2期)
 古賀陽子(2期)、相澤久美子(5期)
 森本美生(5期)

博多織ており作家展
 ▷アクロス福岡匠ギャラリー
 2020年2月17日(月)~23日(日)
 新海佳織(4期)、近藤啓子(6期)
 岡部由紀子(2期)



先輩から後輩へ

実技演習を担当させていただいている卒業生の瀧口です。技術の習得は体感していく事が重要です。二年間での経験が今後の糧になるように何事にもチャレンジして下さい。失敗や迷うことなどが出てくると思いますが一緒に学んで乗り越えていきましょう。(瀧口涼子 1期生)



博多織 DC

本誌の内容に関してのご意見、ご感想等はこちらまで!

情報誌 おりおり便 発行日/2019年8月10日
 編集・発行/博特定非営利活動法人 博多織DC
 〒812-0014 福岡市博多区比恵町20番19号
 TEL.092-472-5102 FAX.092-472-5103
<http://www.hakataoridc.or.jp>

博多織の未来を見守る賛助会員募集中 詳しくはホームページをご覧ください。

・ WANTED ・

博多織DC 14期生募集中

詳しくは、メール又はお電話でお問い合わせください。
 TEL:092-472-5102 FAX:092-472-5103
 Email:hakataori@forest.ocn.ne.jp (担当:野口)



コトコト織ってコツコツ学んでドンドン伝える

おりおり便

vol.18
 2019 Summer
 博多織 DC

イマジンワンワールドに 卒業生の帯が続々採用

オリンピックまでに参加国の着物と帯を制作するイマジンワンワールドプロジェクトに卒業生が制作した帯が続々と採用されています。

小川規三郎学長が制作されたカナダはもちろんのこと。現在、参加している、または参加した卒業生は新海佳織さん、盛かおるさん、古賀陽子さん、岡部由紀子さん、近藤啓子さん、相澤久美子さん、赤松潤一さんなどです。制作した帯も既に20か国と他の帯産地西陣に負けなくらいの数になってきており、手織りの強みを生かし、今後も独創的な帯の制作に挑んでいきます。



新海佳織さんによるモルディブ共和国の帯。民族衣装の鮮やかな色彩からインスパイアされたそう。裏地は貝殻のデザイン。



岡部由紀子さんによるホンジュラス共和国の帯。表地は、金剛インコと国旗の五つ星。裏地は、マヤ遺跡の文様があしらわれている。

おりおり堂が 生まれ変わります!

博多おりおり堂は、博多織の常設展示や販売場として発足した博多織DCの施設です。ここ数年、博多織DC常任会議では、おりおり堂の有効活用について議論を行ってきました。おりおり堂は福岡市が推進する「博多旧市街地プロジェクト」の中心地「御供所町」にあり、聖福寺、東長寺、承天寺に囲まれ、国内、海外の観光客が多いところです。本年6月には「巡航一御仏と、博多織が紡ぐ御供所町一」(廣瀬孔明氏)という写真展を開催し、生まれ変わったおりおり堂の第一歩をスタートしました。おりおり堂には手機があり、博多織DCの卒業生や在校生にも自由に使って頂きながら、フロントスペースを作品の展示や販売、ワークショップや勉強会、作家やアーティスト、企業関係者の交流の場として活用し、博多織を中心とした伝統工芸や地域産業の情報発信地になるようご協力を願います。おりおり堂の利用に関する問い合わせは、博多織DCまでお願い致します。問合せ窓口(092-472-5102 担当:野口)

(青木幹太 理事・事業担当)



△大通りから一步入った昔ながらの博多の街並みになじむ「おりおり堂」。観光や街歩きついでに気軽に立ち寄れるスポット。



▽「巡航一御仏と、博多織が紡ぐ御供所町一」の写真家・廣瀬孔明氏

NEWS

「和の美」の新しい講師紹介



森香菜 (和の美)

Good Day代表・クリエイティブディレクター。編集、出版などの仕事を経て、2006年にテキスタイルメーカーのアンテナショップ・Coccaを立ち上げ、企画・運営に携わる。

STUDENT MESSAGE 博多織DCで学ぶ学生たちのリアルな声をお届けします

13期生の声



入学もない13期生とユニットプロデューサー田村氏(右端)、アシスタント八並氏(左端)

西山 貴世子

新しい環境へと一歩踏み出しこれまであまり関心のなかった事柄や、今後の創作活動に必要とされる様々な内容を学ぶ度に、新鮮で「目からウロコ」の毎日です。着付け教室をきっかけに、入学した博多織DCで充実した毎日を送っております。いつかはお客様の目に止まり、手に取っていただき、装ってみたいと感じて頂ける作品を手掛ける事が出来る様に、総合的な技術と知識の習得に日々精進していきます。

福丸 みお

学生の時にテレビで学校を知り、興味を持ちました。いったんは全く異なる仕事をしていましたが、夢が諦めきれず今年入学。織る手順、織る前に必要な糸繰りや管巻きなどの作業を教えて頂き、時には先輩方からお話やアドバイスを頂きながら、初めて帯を織っています。実技でも座学でもできるだけ多くの事に挑戦、失敗し、少しでも多くの事を身につけていきたいです。歴史ある博多織の伝統技術、知識を学び、いずれ博多織の発展に役立てるようになっていきたいと思っています。



福澤 優芽

小学生の時、学年ごとに竹炭や藍染、皿作りなどの体験があり、日本の伝統には興味を持ちました。大学に入って「勉強するのかわかると迷っていたところ、母からこんな学校があると教えられ、2度の体験入学後に、意思が固まりました。博多織は元々男の人たちによって織られていたもので、丈夫で“絹鳴り”という締めるときに「キュッキュッ」という音が鳴るほどのものでないといけません。他の人より筋肉もないし、どれだけ織る時に力を入れたつもりでも柔らかい帯になってしまいます。不安を感じる時もありますが、沢山食べて、いつか絹鳴りが聞けることを信じて織っていこうと思います。

松下 彩花

先生方や先輩方にご指導頂きながら、製織で少しずつできることが増えてきました。たくさん織れば織るほど上手になっていっているような気もしますが、求評会に向けての帯も、少しでも上手に織れるように、精一杯頑張りたいと思っています。実技以外では、工場見学もさせて頂いて、自分が将来どこに携わってきたいのかが少しずつ見えてきたような気がします。右も左も分からないようなこの業界で卒業後どういった所へ就職したいのか、考えることができてとてもいい機会になりました。少しでも自分のなりたい方向へ近付けるように、頑張ります。



鍵本 透子

幼い頃からものづくりが好きで、細かい作業をこつこつと丁寧にすることが得意。それに大好きな福岡の伝統に携わる仕事に活かしたいと思い、入学を決意しました。博多織との出会いは毎年11月に承天寺で行われる求評会。イメージしていた博多織とは違い、献上柄だけでなく、現代的な柄の帯を見て、感動したことを覚えています。博多織といえば代表的なものは帯ですが、学校では着尺やショールも織ります。和の美という座学の授業で博多織のはざれを使って、商品企画のプレゼンテーションを行いました。私はサンプルとしてブックカバーを作りましたが、和装だけではなく博多織の可能性を感じました。

戒能 いちご

入学当初はただ漠然と織りたい、将来は作家になりたいと思っていました。しかし、授業や工場見学などで細かく分業化されていることを知り、すぐに作家になるのではなく学校でいろいろなものを少しずつ経験したあと織元さんのもとで働きながら織機のことを学んだり、ひとつひとつの作業のスキルを上達させてから作家として独立したほうが自分のためになるのではと考えています。目標にたどり着くために今は積極的に新しいことに挑戦したり、求評会のための帯を織ることに集中していきます。作家になるまで何年かかるのかわかりませんが、無理せず焦らず技術を吸収して博多織の発展に貢献していきたいです。



12期生の声



前列左からユニット授業「国際表現」的野裕子先生、Joel Jackson先生と後列12期生たち

井上七緒

入学から1年でちょっとずつですが、技術も知識も身につけていっています。献上帯だけでなく、着尺や総浮、佐賀錦など2年目は自分がデザインしたものを帯にしてみたりと、いろいろチャレンジしています。これまで自分を表現することが苦手でしたが、ユニット授業などを通し、先生たちの助けをもらって、表現できるようになりました。実技では、帯1本織る時間が徐々に短くなっていきます。また、佐賀錦の一からの機の仕掛けや総浮の仕掛けはとても勉強になったし、慣れてくると楽しくなっていきます。表現することも技術的なことも、まだまだ1人でできないことがたくさんあります。2年目で少しでも身につけていきたいです。

西田由紀

「己に打ち克つ」最近出逢ったこの言葉、「強い意志をもち、努力を怠らず物事にあたること」という意味があるそうです。学校での毎日は、まさに毎日自分との戦い。全く違う分野に飛び込み、日々新鮮ではありますが、学習能力が追いついていません。知識面だけでなく機織りに必要な技術力、集中力、根気、体力も、まだまだ不足しているよう。様々な分野の授業の課題、県展、着付け、着物検定、お茶席、色彩検定など、自分の実力以上のことに挑戦し続けて、苦しみながらも、充実した時間をすごしています。怠け心を封印し、昨日の自分と常に勝負しながら、日々成長していきます。来年度の進路は、まだ未定ですが、残りの学生生活、目の前のことを1つずつ真剣に取り組んでいこうと思います。

小畑恵巳

色々な授業を通して、博多織で自分のやりたい方向性が明確になってきた気がします。それに伴って、色んなことを教えてくださる方も徐々に増え、博多織以外の国内外の産地の織物にふれたりもして勉強になっています。昨年の伝統工芸EXPOでは織物だけでなく、織物以外の伝統工芸品にふれる機会となりました。この度ご縁あって、自宅に大島機を入れる運びとなりました。トントン拍子に話が進み、後は私がやるだけだ!とわかっていながら、思い悩み、体調が整わないなど、先生方にはご迷惑をかけてば

かりいます。母が亡くなって、一大決心をして学校に飛び込んだつもりでしたが、まだ、心根の弱い私が巣食っているようです。織りの腕と共に心も鍛えたいと思っています。

井上結香子

入学後、一番変わったと感じるのは周囲の友達や知り合いの方との会話です。初めは、博多織の学校に通っていると話す「博多織って何?聞いたことはあるけど…」という反応が多く、説明をすることが多かったのですが、最近では「今度はどんなものを作るの?」「博多織の展示会が〇〇でやってるね!」「車で博多織の広告見かけたよ!」と私の学校生活や博多織について声をかけて頂ける機会がとても増えました。周りのたくさんの方々で博多織に目をとめて頂けるようになったのは大変嬉しく思います。残りの学校生活でも織りの技術をはじめ、機械や道具、着物の知識等どんどん吸収して今よりもっと博多織を広められるような人材になりたいです。



城戸那菜子

私の目標は「若い子たちに着物を着てもらい、博多織を知ってもらうこと」です。この目標を持てるようになったのは主にユニット授業のおかげであると感じます。最初に自分自身を知り、好みを知り、博多織を使ったプロジェクトを立ち上げる…。この授業のおかげで制作活動の方向性も見えてきて、次からこういう色でこういうものを作りたいと思えるようになりました。モチベーションも維持したまま織りに取り組んでいます。この先私がどういった進路を選ぶのか分かりません。しかし、自分の目標により近づけるように1日1日を充実したものに出来るようになっていきたいと思っています。

加茂万里江

ユニット授業の課題はなかなか大変ですが、普段お会いすることのない先生のお話を聞くことが出来、とても楽しいです。実技の授業は楽しい反面、1年で成長出来ているのか心配です。これから、求評会に向けての作品作りに本腰を入れる形となっていくかと思うと、2年間はあっという間だなと実感しています。焦っていても仕方がないので、少しでもわかる事、出来る事を増やして先生に、あの子は大丈夫か?と少しでもご心配をおかけしないように、残り少なくなってきた学生生活を充実した毎日に使いたいです。

